阿多多羅

第101号
発行
令和5年11月28日
責任者
福島県公立学校
退職校長会安達支部
伊藤末吉

【巻頭言】

若い力を生かして

副支部長　角田恒雄

今年度本会の副会長を務めます角田です。今までは理事を務めていましたが、事務局を務めることとなりました。初めてですが、会の活性化と発展のために尽力したいと存じますのでよろしくお願いいたします。

今年の夏は例年にない暑い夏になり、最高気温の猛暑日や真夏日となった日数が過去の記録を更新した場所が数多く、まさしく地球温暖化を思わせる夏でした。また、秋の彼岸後は暑い日が続いたかと思うと、会津駒ケ岳初雪を十月六日に観測し、一気に冬の様相を呈しました。日による寒暖差ばかりではなく、昼夜の寒暖差も大きく、七℃を超えると体調を崩しやすくなるといわれます。私も疲れが抜けずだるさを感じた日が続きました。快適に過ごせる秋の期間が短く感じられ、これも異常気象であると思われます。

海でもこの異常気象の影響と思われることが起こっています。福島県沖ではタチウオが獲れるようになり、トラフグや伊勢エビの漁獲量が増え、逆にコウナゴが獲れなくなり、ズワイガニの漁獲量が減るなど、西日本で水揚げされてきた魚すなわち暖水性の魚が福島県沖で多く水揚げされるようになりました。この現象は宮城県や北海道でも同じことが言えます。原因は海水温の変化と黒潮の蛇行が影響しているのであろうといわれています。しかし、漁業関係者は海の変化を前向きに捉え、今ある資源を最大限に活用する動きとなっています。

地球温暖化による社会への影響は大きく、カーボンニュートラルな社会を築こうとしています。課題は地球温暖化ばかりではなく、少子高齢化や格差社会など多くの課題があります。また、高齢化に悩む諸団体も多くあります。このような課題に対して解決へと向かうとき、前述した漁業関係者のようにまず変化を前向きに捉えることが大切と思います。そして、一時的な解決策ではなく、今後も持続可能なことへ取り組むべきと思います。持続可能なアイディアを持ってことに取り組むには若い人の力を借りなければならないと思います。今、高校生とコラボしてのメニュー開発など若い人の考えを生かそうという動きが活発化しています。団体の活動においても若い人を役員に積極的に登用し、その若い力を生かして持続可能な活動を作り上げていく、今やらなければならないことだと感じています。存続させるには、変化に柔軟に対応していかなければなりません。柔軟性を持たせるためには従来にとらわれない新しいものを生み出す必要があり、そのためにも若い力が必要となります。

若い力を育てるためには、ある有名な方が、「師匠とは弟子に答えを教えるのではない。答えを教えるということはその場しのぎの一時的な対応を教えることであり、その後に生かされない。弟子が将来伸びていくには一緒に考えていくのが師匠である。」とおっしゃっていました。これを聞いて、年老いた私は、若い人に教えていかなければと思っていたことが、それはその場しのぎの解決策になることになりかねないと感じました。共に考え、共に行動し、協働者としての態度が大切と思います。諸先輩方のような素晴らしい文章に程遠く、まとまりのないことを書いてきましたことをお許し願います。

【教育随想】

「信頼回復と教育改革」

二本松市教育委員会教育長　丹野　学

凛々しい姿を誇る晩秋の安達太良山。いつの世でも、優しい笑みとともに、私たちを包み込んでくれています。

安達支部会員の皆様におかれましては、日頃より安達地域の各学校に対しまして温かいご配慮ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

東日本大震災から十二年。子どもたちを取り巻く状況は、刻一刻変化し続けております。それに伴い、各学校においては今まで蓄積されてきた知見だけでは乗り越えられない厳しい諸課題に対峙し、教職員が心を一つにして、目の前の諸課題解決に向けて全力で取り組んでいます。

本稿では、何が現状の最大の課題なのか、私見をお示しし、それに対して各学校は、どのような方策を立てて課題解決に向けて取り組んでいるのかをご紹介申し上げ、各学校に対する諸先輩方々からの今後のご指導の参考にしていただきたいと思います。

最大の課題は、学校に対する信頼度の問題だと考えています。価値観の多様化と言う名の下、「学校」や「教職員」に対する信頼やリスペクトが低下している現状を踏まえると、「学校」が子どもたちにとってかけがえのない場所であると言う認識が、社会全体で低下してきているのではないかと危機感を募らせています。

直近のマスコミ報道によると、愛知県では、ラーニングとバケーションを融合させた造語「バーケーション」と言う制度を定めました。この制度は、若干制度上の運用条件はありますが、年間最大三日間、保護者からの申請で普通日に子どもたちを休ませ、学校外における親子の学びを保障する制度だそうです。一見、「なるほど」と思いがちですが、保護者の受け止め方をマスコミ報道で知る限り、疑問も膨らんできます。保護者は、概ねこの制度を歓迎しており、「休日よりも、普通日の方が宿泊費等の経費削減につながる」とか「休日に仕事が入ることが多く、子どもたちとの触れ合いが減っているので歓迎する」と言った意見が大勢を占めておりました。この言葉の背景に潜む、「学校」の存在に対する保護者の認識の低下を感じ取ってしまうのは私だけでしょうか。

『地域社会の中で、「学校」の存在が揺らいできているのではないか』と言うよりも、今まで「学校」が果たしてきた役割を正しく評価されてきてはいないのではないかと不安がよぎります。

私たちは、先輩方から、子どもたちが「学力」を身に付ける「学校」の存在は最も大切であると教えられ、それを糧に、厳しい状況の中でも、歯を食いしばり、教育の質の低下を防ぐ努力を続けてまいりました。更に、「学力」を身に付ける日々の「授業」は、学校の命であるとも教わってまいりました。

「授業の質的転換」という呼びかけは、三十年以上続いておりますが、日々の授業改革は、なかなか前進していないのも事実です。子どもたちにとって学びがいのある学校をどう取り戻していくのか、学校経営を任せられている校長に突きつけられている最大の課題です。教師の質の低下が叫ばれている中で、各学校における校長のリーダーシップに基づく、学校現場での教師の資質向上は急務でもあります。「学校の教育の質を高める」とか「教師一人ひとりの力量を高める」ことは、一朝一夕や十把一絡げで簡単に実現できることではありません。

しかしながら、地域や保護者、子どもからの信頼を回復していく唯一の方策は、授業改善に基づく学校教育の質の向上にあるといっても過言ではありません。

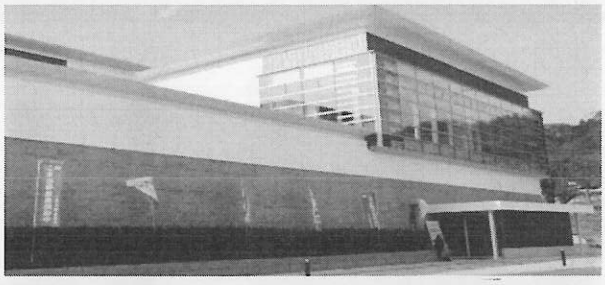
今、学校現場では、厳しい状況下でありながらも、子どもたちがより良く生きるための資質能力を高める学校教育のあり方を真剣に模索し続けています。

第二回研修会開催

「にほんまつ城報館」見学会

十月二十六日に第二回研修会として、昨年オープンした「にほんまつ城報館」の見学会を開催しました。

（二十七名参加）



入口ホール「お祭り広場」の太鼓台の前で開会式を行い、伊藤末吉支部長の挨拶、髙島徹也事務局長からの諸連絡があり、その後、それぞれのペースで見学をしました。

一階の「二本松城ガイダンス室」や「常設展示室」を見学し、二本松城の歴史や石垣について熱心に解説資料やガイドモニターに見入っていました。

さらに一階「企画展示室」の朝河貫一博士生誕百五十年企画展を見学し、最後は二階の休憩ラウンジで閉会式を行いました。

充実した研修会となりました。

研修会参加者の感想

にほんまつ城報館見学

小泉裕明

退職校長会の第二回の研修会を楽しみに出かけました。

玄関を入ると二本松提灯祭りで使われる山車が飾られています。その脇のホールで開会式を行い研修会が始まりました。

にほんまつ城報館はプロジェクションマッピングを採用し、眼と耳を通してより深く理解できるようになっています。

一階には常設展示室と企画展示室があります。企画展示室では、朝河貫一博士生誕百五十年企画展として、「朝河正澄・貫一父子（おやこ）物語」をテーマに展示していました。その中には朝河貫一博士の足跡をたどるビデオがあり、大山采子さんがレポーターをしていました。

常設展示室の手前には二本松城ガイダンス室があり、二本松城に関する情報を紹介し、お城の全体像を理解できるようになっています。

常設展示は「土づくりの城」のコーナーから始まります。二本松城の誕生から畠山氏が治め伊達政宗の侵攻を受けるまでの様子が紹介され、二本松に山城が出来た状況が分かります。

「城と城下町」では、藩主丹羽光重翁が山岡権右衛門と算学者磯村吉徳に命じて作った「二合田用水」のことや「敬學館」が紹介されています。敬學館は儒学や礼法、剣術を大切にした教育方針が示され、文武両道の武士の子供を育てていたことが分かります。その教えは旧二本松小学校の教えにも引き継がれています。

「城の終焉」では、「戊辰戦争」や「二本松少年隊」について紹介され、当時の火縄銃の重さが体験できるように火縄銃が設置されていました。持ってみると意外と重く、当時の戊申戦争の様子が偲ばれます。

閉会式をする二階に上がるとお菓子や地酒のマルシェが開かれていました。

楽しい時間が過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

誠に慶賀の至りと心よりお祝い申し上げます

高齢者叙勲受章会員紹介

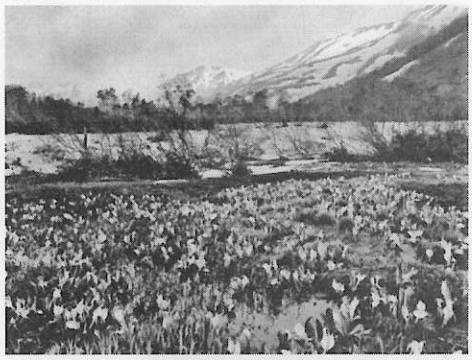
◇瑞宝双光章
三浦　邦雄　様

全退連賀詞会員の紹介

三浦　邦雄　様

表彰された会員の紹介

◇2023全日本山岳写真展
～未来に残そう美しい山河～
「環境大臣賞」受賞
佐藤　邦英　様



「初夏の息吹」
長野県・栂池自然園で早朝撮影

会員随想

パラシュート

笠井　宏

退職して十五年ほど、県、二本松市、本宮市の家庭児童相談員として携わりました。その中でこんな事例がありました。

精神疾患で病む家庭の子育て支援会議を行い、情報交換をはじめ、どんな対応があるか、どんな福祉制度が使えるか検討し、良いと思われることを次々提供。

困難な部屋掃除等に、週二回自立支援ヘルパーが入り、『日中一時支援』を週四回、親子の関わりを深めようと『お母さん大好きプロジェクト』等実践。『良いことだ』と様々な支援をしているうちに、母親が心を閉ざすようになり、行き詰まってしまいました。親の希望や困り感がないのに『この支援は良いことだ。』と前から手綱を引いていたようです。

そんな時読んだ本の中に、『どんな高価なパラシュートも開かなければ役に立たない。』と言う文章に出会い「ハッ」としました。

相談者の気持ちに寄り添い、どうしたいのか一緒に考え、自ら行動できるよう、めげずに、根気よく関わるという基本を忘れていました。

以後、対応に心がけました。

役立ち良かったパラシュート。

① 小さな努力を褒め、自己肯定感を高める。
② マイナス思考を避け、何事も元気の出るプラス思考で考えられるようにする。
③ めげずに根気よく、希望が持てるような言葉かけをする。
④ 『小さな幸せ』を大切にして感謝して生活する。

などでした。

自分自身、失敗したり落ち込んだりしたとき、今でも大いに役立っているパラシュートです。

相談に重いものも多々ありましたが、うれしかった事、感動した事も多く、やり甲斐のある仕事でした。

令和六年度県大会実行委員会第一回全大会開催

八月二十六日に、二本松御苑にて第一回実行委員会全体会を開催しました。伊藤末吉支部長の県大会開催へ向けての挨拶後、組織の確認と係内容・今後の活動計画等について各係ごとに積極的に話し合いを行いました。最後に、次の第二回実行委員会全大会は年明けの一月二十七日であることを確認しました。

☆☆心よりご冥福をお祈り申し上げます☆☆

伊藤　惇　様

令和五年十月七日ご逝去
八十九歳
○元安達太良小学校長

☆先生のご功績に深い敬意と感謝を捧げます。

新入会員の挨拶

近況報告～ご挨拶に代えて

原田真一

四月より福島市黒岩の青少年会館内で勤務しています。主な業務は、青少年の健全育成に関する各種大会・研修会の計画・運営、県内各市町村や学校からの要請に応じた講師の派遣、小・中・高校生を対象とした作文・絵画・ポスターコンクールや少年の主張大会の実施等です。学校現場からは離れていますが、全く関わりのない仕事ではないので、青少年教育を側面から支援する思いを忘れずに勤務したいと考えています。

さて、近年の青少年を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化、学習や生活全般におけるインターネットの普及により大きく変化しております。

また、東日本大震災と原子力災害の経験により、家族や地域における「きずな」や安心してふるさとで暮らせることの大切さを改めて認識することとなりました。

このように学校や青少年を取り巻く環境は十年前、二十年前とは大きく変化していますので、家庭・学校・地域社会が一体となり、青少年を見守ることが一層求められていると強く感じています。

そのような意味からも、学校現場の思いや悩みを共有・理解し、家庭教育の大切さや地域社会の関わりの意義を強く理解する退職校長会の皆様の活動は大きな力を持っており、その一員となったことについては、責任を感じているところであります。

現に、安達支部の先輩の皆様にも子育て応援講師として活躍していただいておりますこと、大変うれしく、ありがたく思っております。

仕事の合間に外に出ると、隣接する保育園からは園庭で元気に遊ぶ園児の声が響いてきます。

そして、園児を優しく見守り声をかける保育士さんが生き生きと働いています。世界の各地で不穏な争いや事件が報道される毎日ですが、子どもや若者が育つ環境は、目の前の光景がどこでも、そしていつまでも続くようにと願わずにはいられません。

気持ちばかりで行動力のない私ですが、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

悪あがき

紺野真一

このたび、退職校長会の末席に加えていただきました。在職中は、皆様に並々ならぬご高配、お引き立てをいただき誠にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

さて、私は、再任用教諭に志願し、旭小学校に配属されました。我ながら、自分は管理職の適正は低いと思っていたので、教諭として子どもたちと直に向き合いたいと考えておりました。ところが、いただいた職務は初任者研修の拠点校指導員。

私は、バブル期、三百、四百は当たり前という大量採用時代の一人であります。大きな声では言えませんが、今となっては笑い話になりますが・・・ということがたくさんあります。とても初任者の前で偉そうに語れる者ではないのですが、御上の命課であれば逆らう余地もなく、毎日冷や汗と脂汗を流しながら二本松市内四つの小学校を巡る日々を送っております。

光陰矢のごとし

初任の先生方を見ていると本当に月日が流れるのはあっという間であることを、改めて実感させられます。

少年老いやすく学成りがたし

自分の知識や経験がいかに浅薄なものだったか、身の程を知らされています。毎日学び直しの日々です。

後悔先に立たず

とはいえ、今更悔やんで何か戻ってくるわけもなく。毎日若い先生方と昔話や今の話、ちょっと先の話などをして時間を使っております。

後の祭り

「ジジ放談」にならぬよう気をつけているのですが、気がつくと昭和の話になってしまい、反省しきりの毎日です。

セカンドライフの自覚が薄く、未だ汲々とした日々を送っている私ではありますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新入会員の挨拶

働ける幸せに感謝

～回想と近況から～

三津間勝彦

豊島区立十中学校（現明豊中学校）は私が教育実習を行った学校です。実習最終日は午前中授業で、給食がなくお弁当が必要でした。かつ丼を注文していましたが、生徒がお弁当を作ってきてくれました。胸がいっぱいになり、食事が喉を通らなかったことを覚えています。

大学卒業後から定年退職まで延べ十校勤務しました。恩師から、「どの学校が一番よかったか」と聞かれ、「どの学校もよかったです」と答えました。素晴らしい出会いと感動の日々でした。同僚、生徒や保護者、部活動関係者などに恵まれ、温かく見守られてきました。

自らの役割を強く意識したのは、平成二十三年三月に起きた東日本大震災の時でした。何も行動に移せない自分自身を情けなく思い、その無力さを痛感しました。当時、自分と向き合い、何が出来るか真剣に考えました。そして、数学教師として、数学の指導を通して生徒の可能性を引き出すことが自分の使命なのだと再認識しました。

四月から算数・数学学力向上支援アドバイザーとして、本宮一中に週二回、本宮二中、白沢中、川俣中に週それぞれ一回勤務しています。仕事の質向上を目指し、参観授業ごとのアドバイスシート作成、昼休みに二・三年生全生徒対象の教育相談、数検受検対策講座、モデル授業の実施など、様々な取り組みをしています。川俣中以外はかつて勤務した学校であり、それぞれに沢山の思い出があります。懐かしさと新鮮さが入り交じっている感じです。また、九月からは日本で学ぶ外国の中学生に月一回程度ボランティアで数学を教えており、教育に携われる喜びを日々新たにしています。

学校や生徒のために今できることを精一杯やる。そんな「働ける幸せに感謝」しながら毎日を過ごしています。

次の世代につなぐ

鈴木浩記

ほんとうの空と安達太良山の紅葉のコントラストが美しく映える季節となりました。

退職校長会安達支部の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私こと、令和五年三月末に二本松市立東和小学校勤務を最後に定年退職し、本会会員として迎えていただくこととなりました。

これまでを振り返りますと、平成三年四月、会津若松市立門田小学校勤務をスタートに八校三十二年間、勤務した学校の教職員、関係の皆様のご指導のもと、どの学校でも明るく元気な子ども達と過ごすことができ、充実した教員人生を送ることができました。

中でも安達地区では、教諭として白岩小学校で、教頭として玉井小学校で、校長として東和小学校で、合わせて十年間勤務し、それぞれの立場で多くの貴重な経験を積ませていただいたとともに、多くの絆ができ、つながりをもつことができたことは、私の人生の大切な財産となっております。

退職後の現在は、再任用教諭として二本松市立油井小学校に勤務し、初任者研修担当として、微力ながら二本松市内の小学校六校六人の初任者の指導にあたっています。

様々な職業がある中、教職という道を選び、日々悪戦苦闘しながらも、意欲をもって児童の教育にあたっている各校の初任者に応えるために、これまでのご指導をもとに私自身が学ぶ姿勢を忘れずに、また、次の世代につなぐことができるよう日々研修に臨んでいるところです。

結びに、会員として迎えていただきましたが、まだまだ若輩者でございますので、今後とも、退職校長会安達支部の皆様方からのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。